

二級水系 流域治水プロジェクト

河辺川・朝来川・志楽川・祖母谷川・与保呂川・福井川水系 流域治水プロジェクト【位置図】

京都府

～港へ流れる河川で流域治水を推進～

○気候変動による水災害の激甚化・頻発化に対応するため、河辺川・朝来川・志楽川・祖母谷川・与保呂川・福井川においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、流域における浸水被害の軽減を図る。

対策内容

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河川等整備（河道掘削、河道拡幅、護岸整備）
- ・河川等の維持管理（維持掘削、河道内樹木の伐採等）
- ・下水道、排水機場などの排水施設の整備・維持
- ・流域の雨水貯留機能の向上・保全

■被害対象を減少させるための対策

- ・宅地嵩上げ

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・水災害リスク情報空白地帯の解消
- ・住民の水害リスクに対する理解促進の取組
- ・土砂災害警戒区域等の指定
- ・避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実
- ・確実な避難行動の実施
- ・排水ポンプ車導入、出動要請の連絡体制の整備、排水計画に基づく排水訓練の実施
- ・水防工法等の訓練や土のう等の備蓄資材確保など、水防活動の支援
- ・地図混乱地域の解消

※災害からの安全な京都づくり条例に基づき、府、市等が一体となって防災対策を推進

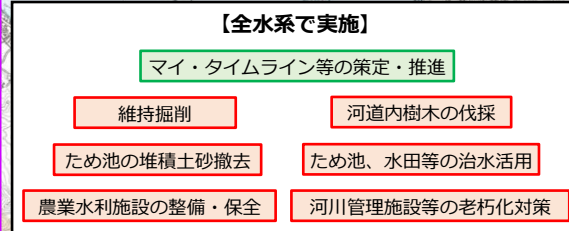


図-1 維持掘削

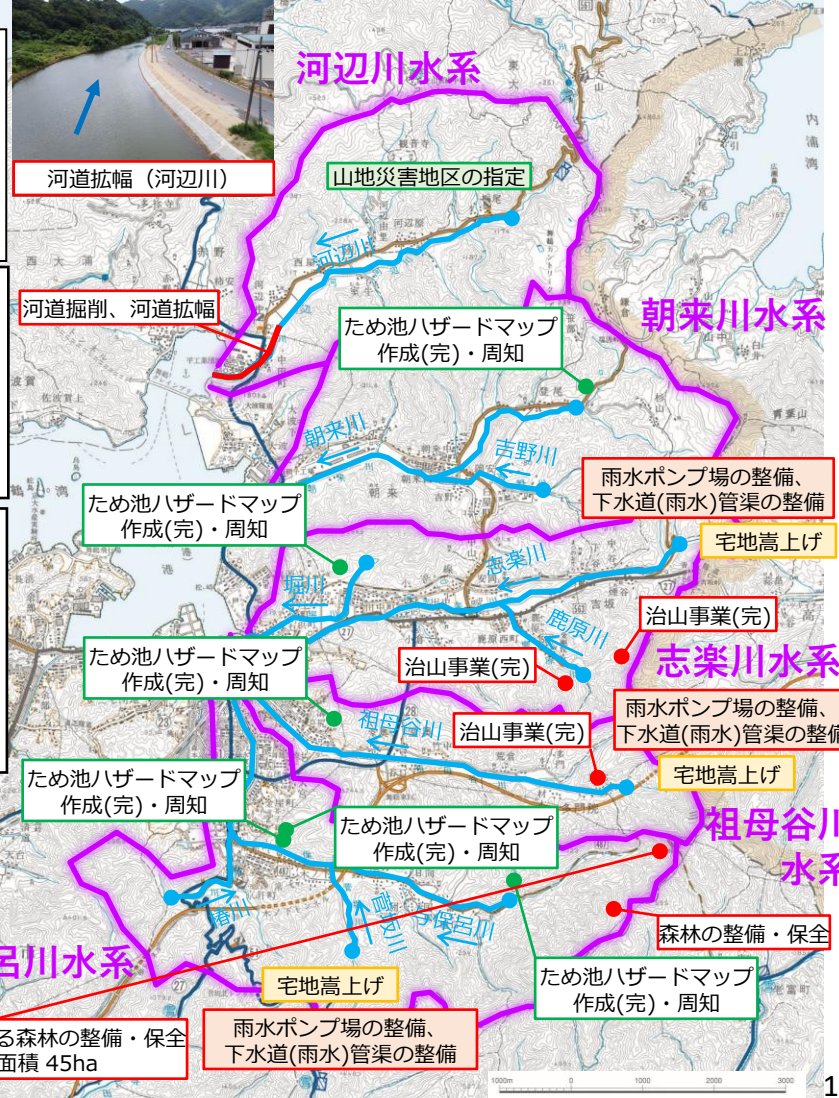


図-2 避難行動タイムライン、自主防災組織講座

※本図は全対策の内、代表的な対策を記載している。
※具体的な対策内容については今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

二級水系
流域治水プロジェクト




























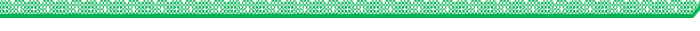
河辺川・朝来川・志楽川・祖母谷川・与保呂川・福井川水系
流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～港へ流れる河川で流域治水を推進～

● 河辺川・朝来川・志楽川・祖母谷川・与保呂川・福井川水系では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、府、市が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】 河川整備により、護岸等を整備するとともに、浚渫や樹木伐採等の維持管理も併せて実施する。

【中長期】 河川整備の実施とともに「排水ポンプ場の整備」など排水施設の整備・維持も併せて実施する。

区分	主な対策内容	実施主体	工程( 対策実施中  対策完成)	
			短期(令和4年度～令和8年度)	中長期(令和9年度～令和33年度)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河川等整備	京都府		
	河川等の維持管理	京都府		
	支川の維持管理	舞鶴市		
	下水道、排水機場などの排水施設の整備・維持	舞鶴市		
	流域の雨水貯留機能の向上・保全	京都府 森林整備センター		
被害対象を減少させるための対策	宅地嵩上げ	舞鶴市		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報空白地帯の解消 住民の水害リスクに対する理解促進の取組	舞鶴市 京都府		
	土砂災害警戒区域等の指定	京都府		
	避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実	舞鶴市		
	確実な避難行動の実施	舞鶴市		
	排水ポンプ車導入、出動要請の連絡体制の整備、排水計画に基づく排水訓練の実施	舞鶴市		
	水防工法等の訓練や土のう等の備蓄資材確保など、水防活動の支援	舞鶴市		
	地図混乱地域の解消	舞鶴市 京都府		

河辺川、福井川
河道掘削、河道拡幅、護岸整備完了

排水ポンプの整備

舞鶴市総合モニタリング
情報配信システム運用

舞鶴市防災アプリの整備

気候変動を踏まえた更なる対策を推進

※スケジュールは今後の事業進捗の状況によって変更となる場合がある。